

「福祉サービス第三者評価を準用した調査」結果報告書(平成19年度)
(東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助)

社会福祉法人 武蔵野会
 八王子福祉作業所 施設長 多々良 康子 殿

郵便番号 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

特定非営利活動法人NPO人材開発機構

評価機関名

認証評価機関番号 機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	担当分野	修了者番号
	① 経営	H0402001
	② 経営	H0201046
	③ 福祉	H0602002
	④ 福祉	H0202080
	⑤	
⑥		
福祉サービス種別	就労移行支援、就労継続支援B型 (旧体系 知的障害者通所授産施設)	
調査対象事業所名称	社会福祉法人武蔵野会 八王子福祉作業所	
事業所連絡先	郵便番号	193-0931
	所在地	東京都八王子市台町3-17-30
	電話番号	042-626-0631
事業所代表者氏名	施設長 多々良 康子	
契約日	2007年10月25日	
利用者調査票配布日(実施日)	2007年12月13日	
利用者調査結果報告日	2008年2月13日	
自己評価の調査票配布日	2007年11月8日	
自己評価結果報告日	2008年2月13日	
訪問調査日	2008年2月18日	
調査結果合議日	2008年3月6日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	八王子福祉作業所は、昭和54年に東京都の設置で開所した「知的障害者通所授産施設」を平成19年4月1日に東京都から社会福祉法人武蔵野会に運営を移譲されたと同時に、障害者自立支援法に基づく、通所による「就労移行支援事業」と「就労継続支援事業(B型)」のサービスを公設民営施設として再スタートした。利用者調査にあたり事前に事業所と評価手法並びに日程等を協議し一連の方法・手順等を計画した。なお、評価者の顔写真を室内に掲示したり、昼食を共にするなどして意思疎通を図ることに努めた。また、家族にもアンケート調査を依頼した。	

調査対象	利用者現員58名「男性28名(48%)、女30名(52%)」、年齢、男性40.1歳、女性38.9歳、平均年齢39.5歳の利用者のうち、調査当日の出所者を調査対象とした。		
調査方法	利用者の授産活動の妨げにならないよう一人に要する時間は約30分を目安に、「聞き取り方式」で行った。また、昼食も共にとり意思疎通に努めた。聞き取りは、1対1の対面で行い利用者の理解とプライバシーに配慮して行った。		
利用者総数(人)	58		
調査対象者数(人)	アンケート	聞き取り	計
有効回答数(人)	50	50	50
利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	86.2	86.2

利用者調査全体のコメント

利用者の通所形態は、徒歩や公共交通機関を利用しており、事業所で送迎は行っていない。障害者自立支援法に基づく、「就労移行支援事業」と「就労継続支援事業(B型)」を行っている。製菓メーカーの製品詰め・箱づくり・チラシ折り及び、団地等清掃などを行っている。こうした授産作業中に「聞き取り」を行うため、作業の流れ等をみながら、30分を目安に「聞き取り」方式で行った。その際、調査票に自記することも勧めるなどして利用者の主体性の尊重に努めた。聞き取りからは、「仕事等日常の活動はやりがい…」は9割の方が、「工賃等の仕組み…」は8割超の方が「はい」とし、「仕事を楽しく頑張っている」、「仕事が好き」などさまざまなコメントがあった。一方、「第三者委員などに相談」の項目については、計数的には「はい」が約4割で「いいえ」、「無回答」がそれぞれ約2割超の数値を示している。コメントには「知っているが相談したことはない」、「知らなかった」などさまざまな声が聞かれた。総合的満足度は約8割の方が満足と回答している。なお、家族アンケートからは「作業所に行くのが大好き」、「本人が気持ちよく仕事ができる」などのコメントも寄せられている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	45	3	2	0
9割の方が「はい」と回答して、「楽しい」、「仕事を楽しく頑張っています、封筒入れをしている」、「お仕事が好きだから大変じゃない」、「毎日休まず来ています、仕事は楽しいです」、「お正月の食べ物を入れる箱やふたを作る仕事をしています」、「さまざまです、でもやりがいはいくらでもあります」、「うるさい人がいたり、私の名前を言って邪魔する人がいます」、「私は今、歳暮シーズンの箱おりから包装です」、「今、箱折りとても忙しい、楽しいけれど少し疲れる」など様々なコメントがあった。				
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	41	7	1	1
8割超の方が「はい」と回答して、「工賃はもらっている、いろいろな物を買う」、「もらった工賃はお母さんに渡している」、「職員と話したことはないが、仕事をいっぱいもらってきてやれば上がるんじゃないかな」、「10日にもらっている」、「10日支払い、事務室で手渡しでもらっている」、「工賃はちゃんともらっています」、「給料日が嬉しい」、「金額から名前もチェックしてくださいと言われるまで説明があります」、「以前より上がったが、生活にひびくので、もう少し高くしてほしい」、「聞いたことがない」などさまざまな言葉が聞かれた。				

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	37	10	2	1
7割超の方が「はい」と回答しているが、「どちらともいえない」などを選んだ方もあり、「特に困ることはない」、「友達同士で助け合っている」、「相談してるよ」などのコメントや、「困ったことはないが、相談できると思う」、「助けてもらいました」、「困った時には相談している」など「困った時」との言葉が多く聞かれたのは、調査票の設問を読み「困った時の職員の相談・・」のためと思われる。その他にも、「取り上げてくれない雰囲気の時もある」、「職員の気持ち次第の時もあるので」、「やさしい人です」などと、自記する方もあった。				
4. 施設の設備は安心して使えるか	39	6	4	1
約8割の方が「はい」と回答しており、「ここで怪我したことはない」、「平気だ、大丈夫」、「安心していられます、大丈夫」、「怪我したことはありません」、「今工事中なのでトイレが危ない、その他は安全」、「今トイレ工事中なので、材料や TENT などあるので注意しています、工事が終われば良くなる」や、「トイレは危ない」、「いろいろです」、「安心して使います」など自記する方もあり、改修工事に注意しながら安心して仕事に励んでいる様子がうかがえる。他に4名の方が「いいえ」としたのは道路やバスなど通所時の状況である。				
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	29	11	4	6
「内緒の話は秘密にしてくれる」、「ちゃんとしてくれている」、「秘密のお話しをしたら、秘密にしてくれた」、「普段あまりしゃべっていないから、どうかはわからない」、「秘密にしてくれます」、「秘密の話は秘密にしてくれます」など、「秘密にしてくれる」との言葉が多く聞かれた。他に、「秘密の話はしないからそれはわからない」、「秘密ごとはないので話さないの、秘密にしてくれるかはわからない」、「秘密ごととは言わない」などの話も聞かれたが、関心を示さない方もあった。				
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	31	13	2	4
「たまに言うて聞いてくれる」、「困った時には友達に話す、それでもわからない時は職員に言う」、「されていると思う」、「今の職員さんはやさしい」、「皆さんやさしい、おこられたことはない」、「何でも話せる」、「みんなやさしい人です」、「職員さんはやさしい、友達もやさしい」などのコメントがあり、特に「職員はやさしい」の言葉が多く聞かれた。一方で、「人のことはわからない」、「職員に聞いてください、自分はわからないです」、「わからない」などと話す方もあった。				
7. 職員の対応は丁寧か	43	3	3	1
「さん付けで呼んでくれる、やさしい」、「〇〇さんと呼ばれている」、「〇〇さんと苗字で呼ばれている」、「言葉も丁寧です」、「職員は丁寧です」、「丁寧にしてくれます」、「みんなやさしい」、「お友達に〇〇ちゃんと呼ばれている」など、多くの方から「さん付け」で呼ばれているとの話があった。なかには、「もう少し言葉遣いを丁寧にしてほしいと思う」などのコメントもあった。				
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	24	14	2	10
「はい」が24名(5割弱)、「無回答」が10名(2割)など、回答もまちまちであり、「目標は決まっている、皆話を聞いてくれる」、「自分の意思でちゃんと決めている」、「お仕事の話はしている」、「いろいろ話をしました」、「入る時に目標を聞いてくれた」などの言葉や、「この部分はよくやってくれます」、「くれるけれども全然です」など自記する方もあった。また、「覚えていない」、「忘れてしまったが、聞いたような気がする」、「話をしてくれたかも知れないがわからない」とのコメントや、関心を示さない方もみられた。				
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画についての説明はわかりやすかったか	21	1	1	0
有効回答数50名中、「説明を受けたと回答した」23名の中で、「はい」の回答が21名(9割超)で、「わかりやすい」、「一般就労を目標にしており、トライアルなどして就労に向かっている、職員が全員サポートしてくれていることに感謝している」、「職員のアドバイスを信じて活動している」、「職員さんと、仕事をすることについて話をした」、「目標ということはわからない」、「あったような気がする」、「よく覚えていない」などの話が聞かれた。				

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	3	1	0	1
コメントは1名のみなので記載を省略する。				
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	36	8	0	6
「言いやすくなったが、あまり言うこともない」、「特に困ってない」、「特別に気の合う人もいないが、職員には言いやすい」、「言います」、「個人でも話している、自治会の方に紙で渡してもよいと言われており、何回か渡したことがある」、「気軽に話ができます」、「不満はありません、何でも話しやすいです」、「何でも言える」、「職員さんは忙しい、言わないで我慢してしまう」、「言えるようです」、「友達に嫌なことをされた時、すぐに職員に言える」などのコメントがあった。				
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	37	6	0	7
7割超の方が「はい」の項目を選んでおり、「ちゃんと応えてくれます」、「困ったら相談します」、「注意をすることを職員に言うと注意してくれます」、「あまり言わない」などのコメントが聞かれた。				
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	21	4	13	12
この項目は、計数的には「はい」が約4割で「いいえ」、「無回答」がそれぞれ約2割超の数値を示している。コメントには、「知っているが相談したことはない」、「知らなかった」、「知らない、気にしない」、「別に相談したことはない」、「めったに来ないが、来た時には、ちょこちょこ話しをしている、聞いたこともあるし、玄関のところの職員室の壁にも貼ってある、相談することはない」、「ここに苦情相談ということで人が来ている、私は外の人と相談することがないので、相談したことはない、施設の人で十分です」など、さまざまな声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
カテゴリ1の講評		
<p>八王子福祉作業所は平成19年4月に東京都から、社会福祉法人武蔵野会がその運営を移譲され、基本的には公設・民営で運営することになりスタートしたばかりである。従って目指している理念も武蔵野会(これを法人と称す)の理念をそのまま施設の理念として「事業計画書」や「支援介護の基本ブック」などを各所で明示している。その理念を職員の理解が深まるように法人の地区研修で研修し、かつ利用者本人や家族等の理解が深まるように「事業計画書」に記載し十分説明をし、さらにはその方針を記載した「支援介護ブック」を職員全員に配布している。</p> <p>平成19年度の支援計画に関しては、法人の理念である「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という観点に立ち、①利用者本位・利用者中心の姿勢、②利用者の個々の尊厳と人権を最大限尊重・擁護、③利用者が主体的に個性・能力を発揮、④利用者が日々の働く喜びや生きがいを見出し安心と満足を得る、⑤利用者の心身のハンディの有無に関わらず極く自然に社会参加を図って行けるよう実践している。</p> <p>重要な案件を検討し決定する手順は、施設長や主任で構成される「運営会議」で決定されるというプロセスが予め決められており、その決定経緯に関しては職員会議で職員に伝えられる。利用者に対しては月1回開かれる利用者自治会「のばら会」で必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている。日々にあったこと、伝達したいことは毎日の終礼時にタイムリーに職員に伝達している。</p>		

カテゴリ2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点 (A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点 (B)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		
サブカテゴリ2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点 (A+)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし		
地域との交流は、移譲前はほとんどなきに等しいものであったのでその改善に力を入れた。近隣の都立高校から延べ300名の学生を迎え入れ体験実習を実施した。月2回中学生が来所し利用者との共同作業を行ったほか、施設長が講師として近隣の養護学校や地域児童デイの「出前講座」に出向く等、積極的に相互の交流作りを積極的に展開した。		

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評

八王子福祉作業所が守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを「支援介護基本ブック」に明示し、全職員に対しては職員会議開催時に合わせて学習会を開催しその理解が深まるように取り組んでいる。第三者による評価は今回初めて受けることになりその作業が行われているが、結果が次次第公表することし、開かれた組織になるべく取り組んでいる。地域社会に対して施設に関する情報開示をして透明性を高める広報体制の準備を進めている段階である。

施設の機能は利用者に支障のない範囲で地元の老人会カラオケクラブ(ふたみ会)に食堂を月2~3回提供したり、児童相談所の体験を受け入れている。また、地域の人や関係機関を対象に施設の専門性をいかして、施設長が講師として、地元の養護学校や地域児童デイで話し啓発活動を行っている。ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を「ボランティア受け入れマニュアル」に明示しその担当者を配置しボランティアが利用者のプライバシーの尊重をするように配慮する体制を確立している。

地域関係機関のネットワークであるNPO組織のワークセンター授産活性化部門の運営委員会に参加すると同時に、就労支援部門の運営委員会にも参加しその会場も提供して、地域との関係を密にしている。近所の都立高校の生徒延べ300人を体験実習に受け入れて地域社会とのつながりを深めている。また児童相談所の中学生が作業体験に来所し利用者や協働作業を行っている。利用者が情報誌(ぼど)のポスティングをしたり清掃業務も行い地域との連携を一層深めている。

カテゴリ3

3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

カテゴリ3の講評

苦情解決制度を有効なものとするために施設の玄関ロビーの掲示板に苦情解決委員の3名の顔写真を張り出し、月に1回、苦情解決委員会が開かれるから、利用者は遠慮なく利用するように朝礼などで勤めている。利用者の意見・要望・苦情などは職員間で速やかに情報交換しその解決に迅速にあたるようにしている。また第三者委員会に出された指摘に関しては、職員に伝えて的確に対処している。

利用者意向の集約と分析及び施設のサービス向上への活用に関しては、利用者アンケートなど施設からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる。利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している。そして、利用者の意向をサービス向上につなげるため、のばら会(自治会)や保護者会からの要望を具体的に取り上げ活用している。

地域の福祉ニーズの収集に関しては地域の養護学校との連携や法人傘下の授産6施設との月1回の会合に参加し、地域ネットワーク作りに取り組んでいる。また福祉事業全体の動向の収集に関しては、都の社協やセルフ関連の協会の情報をこまめにチェックしている。また施設として今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を具体的に把握しそれらを整理・分析している。

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(A)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点 (A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ2		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点 (A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
カテゴリ4の講評		
<p>都からの移譲申請にあたって、事業計画書(平成19年度から23年度)が作成されている。法人は独自に、法人理念・ビジョンの実現に向けた中期計画(18年度～20年度)を作成している。この法人の中期計画に則って、八王子福祉作業所としても施設経営目標を掲げている。支援サービスの向上や財務基盤の安定化など具体的な数字(目標)を上げている。この経営目標の進捗状況を中間報告(4月～9月)としてまとめているが、全体としては6割程度の達成状況と自己評価している。</p> <p>課題の明確化、計画の策定の時期や手順は年度計画をベースに予め決まっており、基本的には職員会議で行っているが、施設長が各職員の意向を聞き取ることも同時に行っている。また利用者の自治会(ばらの会)での意見収集し、計画を策定している。計画推進の方法に関しては施設の目標を明示し、その計画を下に職員個人の目標に落とし込んでいる。個人目標についても中間期に計画の進捗状況の中で確認している。</p> <p>利用者の安全の確保・向上を図るために「感染マニュアル」「事故マニュアル」を作成し、発生した事故や事故につながりやすい事例などを基に事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止・予防策に取り組んでいる。事故の内容は、利用者に関わるというよりは、授産製品の納期などに関するものが多くを占めている。また再発防止に向け月次報告はしているが、今後は1年間の状況を分析し報告する予定である。</p>		

カテゴリ5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金・昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ5の講評

施設の「人事制度に関する方針(人事像・職員育成・評価の考え方)」は施設が属する法人全体の人事考課制度で明示している。採用や適材適所の人事配置に関しては法人全体で各施設の状況を踏まえて行っている。職員一人ひとりの能力向上に関しては、年1回個人目標を立てさせ施設長が面接の上、確認をして、個人別の研修が受けられるように配慮している。研修後には研修報告書を提出させ報告会を実施している。

職員の判断で実施可能な範囲とそれを超えた場合の対応方法に関しては職務基準書に明示し、職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫については、「気づきメモ」を基に業務改善を行っている。また研修成果に関してはレポートを作成させ、研修報告会を年度末にまとめて実施し、共有化に取り組んでいる。また、職員それぞれの特性に合わせた役割を分担することにより、働きがいの向上につながっている。

施設職員の育成・評価・報酬(賃金・昇進・昇格など)は法人全体の人事評価制度の中で行っている。4月移譲後しばらくは不慣れなこともあり勤務時間など就業状況の管理が困難な時期があったが、現在では授産作業も順調に推移し、来年度からの新事業展開に向けての就業体制の検討が始まった。なお、福利厚生制度は法人全体でその充実に努めている。

カテゴリ7		
7 情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
カテゴリ7の講評		
<p>施設は情報の重要性や機密性を踏まえ、請求事務に関わる処理ソフトを平成19年度半ばから導入しアクセス権限を設定している。収集した情報は必要な職員が必要な時に活用できるようにソフトを活用し整理・保管している。施設の個人情報は持ち出し禁止で、その情報はコンピューターに保存せずにUSBで保存し、そのUSBを厳格に管理している。</p> <p>個人情報の保護については、職員が理解し行動できることに配慮して「個人情報保護規定」を作成し実施しているが、現在は職員に対してのみ、個人情報に関する誓約書を受領している。これからは、実習生、ボランティアにも誓約書を受領することが望まれる。また開示請求に対する対応方法も「個人情報規定」に明示している。</p>		

カテゴリ8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>○地域との交流は、移譲前はほとんどなきに等しいものであったのでその改善に力を入れた。近隣の都立高校から延べ300名の学生を迎え入れ体験実習を実施した。月2回中学生が来所し利用者との共同作業を行ったほか、施設長が講師として近隣の養護学校や地域児童デイの「出前講座」に出向く等、積極的に相互の交流に取り組んだ。</p> <p>○平成19年度の4月～9月の事業活動を中間報告にまとめ事業の進捗状況を確認した。</p>	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>○4月移譲後しばらくは不慣れなこともあり勤務時間など就業状況の管理が困難な時期もあったが、現在では授産作業も順調に推移し、来年度からの新事業展開に向けての就業体制の検討が始まった。</p>	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>○移譲後、利用者4名の増員を行い、かつ3名のトライアル雇用を実現できた。</p> <p>○自立支援法に基づき、新たに「就労移行支援重要事項説明書」及び「就労意向支援契約書」を作成した。</p> <p>○就労移行班プログラムを作成した。</p> <p>○新たに加工作業として、封入作業、紙袋のひも通し等を行っている。</p> <p>○利用者の健康維持・増進のため一人ひとりの「健康手帳」を作成した。</p> <p>○近隣の公園で行われる市内の障害者団体主催の「八王子福祉祭り」に出店したり「ふれあい運動会」にも初めて参加した。</p>	

サブカテゴリ4

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

A+ A B C

改善の成果

- 東京都からの移譲後初年度でもあったが、収支差額はプラスとなった。
- 事業のコスト削減や改善案を検討中である。
- 次年度以降の就労継続支援B型事業の安定化に向けて自主製品の開発・販売の検討が始まった。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

A+ A B C

改善の成果

- 地域の福祉ニーズの収集に関しては地域の養護学校との連携や法人傘下の授産6施設との月1回の会合に参加し、地域ネットワーク作りに取り組んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 利用者等に対してサービスの情報を提供している 評点(A)		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評		
<p>八王子福祉作業所は、昭和54年から東京都が運営してきた施設を、平成19年4月に移譲された。法人のホームページでは事業所の施設概要、支援方針、入所申込、ボランティア募集の内容が掲載されている。法人として初の障害者自立支援法のもとでの就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業を開始することとなった。パンフレット「施設の案内」はあるが、現況を広く伝える施設独自のホームページの開設が待たれている。</p> <p>施設長は、地域に開かれた施設を目指し近くの養護学校に講師として招かれ、当施設について講演した。その内容が口コミで広がり、夏休みの「親子体験学習」に13組の参加者があり、数日間親子での作業体験を行った。また、付近の都立高校より300名近くが来所し作業を見学し、これを契機にボランティアの意向を示した生徒もいた。また市外の養護学校の親からの見学も多数あり、随時対応している。なお体験実習は、一日2組に限定し作業に支障をきたさないようにしている。</p> <p>就労移行支援事業などに向け行政や関係機関とは連携協力している。特に地元の障害者就労支援センターやハローワーク、障害者職業センター、同法人の関連施設などと連携をとり、新しい情報の収集や協働をしている。同法人の広報誌である「春夏秋冬」にも当作業所が紹介されて、関係機関や家族に周知を図っている。また、移譲前から発行されている「八王子だより」を家族や関係者への継続して配布している。</p>		

サブカテゴリ2

2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(**A**)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2の講評

利用者は、東京都が運営していた時から継続している方が多数である。移譲前の3月までに、保護者会で重要事項説明書を読み合わせた後、本人とも読み合わせを行い内容の確認をした。

自立支援法に基づき、新たに「就労移行支援重要事項説明書」を作成し、サービスの内容として、①日常生活の支援及び②相談援助について明記している。また「就労意向支援 契約書別紙」では、①提供するサービスの内容(利用時間、休業日)及び②料金(訓練等給付費支給、対象外サービス利用負担額)の説明をし、署名捺印で同意を得ている。

就労移行支援で一般就労にこぎつけた元利用者に対し、就労後は、障害就労センターのジョブコーチと連携し定期的に職場訪問をし、本人及び職場の担当者からの情報により定着にむけての支援を継続している。当施設を訪問したり、引き続き土曜日のクラブ活動やレクレーションに参加している元利用者(先輩)の姿も見受けられる。この一般就労し活躍している先輩と接することで、これから就労支援を目指す利用者にとっての良き参考となっている。

サブカテゴリ3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3

利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

サブカテゴリ3の講評

個別支援計画書は、移譲前からのプロセスを踏襲した形式で作成しており、①本人・家族の目標、②生活支援、③作業支援、④実習・就労で構成されている。その上で、家族の希望や本人の希望を十分に聞き、適性を考慮しながら本人の希望に沿った支援計画書を策定している。6月頃保護者に面談・説明しその後利用者にも説明し、同意の上、署名をもらうようにしている。個別支援計画は半年後に見直しを行った。また随時職員会議・ケース会議等で話し合い見直しを図っている。

日々の個人の様子は、個別支援記録を作成している。個別支援計画に立案されている課題への取り組みについては、推移がわかるように区分して記録する書式になっている。また、紙ベースでの個人ファイルを作成しており、必要な時は取り出せるようにしており、通常は鍵のかかる棚へ収納している。

今年度より初めて、ご家族との連絡帳を作成し日々連絡を取り合っており、重要な連絡は必ず閲覧をしたことを確認するため互いに捺印している。毎日入る家族からの情報は内容を確認し、作業班ごとに情報を共有化するとともに、役職者への「報告・連絡・相談」を迅速に行っている。終礼時は全員参加で、班ごとの活動、利用者状況の報告を行い、申し送り翌日の伝達事項を確認し合い、漏れのないように努めている。また、班日誌や業務日誌へ記載し、全職員で利用者が安心して活動が送れるよう支援を行っている。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、利用者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

サブカテゴリ5の講評

就労、実習など対外的な活動に伴う照会には、利用者に面談などにより事前に知らせている。また連絡帳で保護者の了解を得ている。ロッカーの持ち物管理は職員は介入しておらず、希望者のみ鍵を預かることがある。排泄、着脱等見守りが必要な利用者が若干みられ、同性の職員の見守り介助でプライバシーに配慮している。利用者の写真掲載については、本人及び家族の同意書をとってプライバシーの保護に努めている。

施設では、イエスであれノーであれ利用者が「自分で判断する」ということに重点を置き、本人の意思が出るのを待って、その意思が出るように支援している。ノーという場合は、なぜノーなのか気持ちの整理をして、結論までの過程を職員と一緒に考えるようにして、自分で納得する答えを出せるように図っている。新規利用者に関しては、正式な利用開始までは、各利用者にあわせて実習等を行い、作業体験などを行うようにしている。

法人研修、施設内研修もしているが、市内にある同法人が運営するすぎな園、希望の里、八王子心身障害福祉センター及び同時期に運営を移譲された八王子生活実習所の職員と共に勉強会を開き、施設長が講師となりロールプレイ等で、利用者の人権の尊重等についての学習を深めている。自主勉強会は職員の交流・意見交換の場ともなっている。

サブカテゴリ6

6 事業所業務の標準化

評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評		
<p>作業の手順書は、入所者が混乱しないように移譲時の引継ぎのマニュアルを活用し、不都合ができた場合は職員会議等で話し合いを重ね、訂正加筆をし周知を図っている。法人の行動規範についての手引き書「支援介護の基本ブック」の読みあわせをしているが、施設独自の手引書の作成も課題となっている。なお、法人作成の職務基準書で施設職員の職務内容を細かく規定しているが、授産事業の現場での職務内容との整合性が課題となっている。</p> <p>施設では、終礼や職員会議を通してサービスの基本事項や手順の確認をし、施設長は必要なアドバイスをするようにしている。接遇リーダーは研修会に参加し、リスクマネージャーも配置している。感染症、事故対応マニュアルも作成しており、利用者の安全性に配慮した支援をするよう、作業の場やそれ以外の時間には必ず見守りの職員を配置している。事故につながる状況や支援の気づきに対して職員の「気づきメモ」の提出を義務付けているが、全員が提出するまでには至っていない。</p> <p>施設内研修、法人研修はもとより、職員は外部研修にも必ず年1回は受けるように、施設長は職員個人の希望に合わせて日程の調整を図っている。特に新人職員や初めて通所授産施設に異動になった職員は、地区研修会で介護技術を学んだり市内の同法人施設間のネットワークも利用して自己研鑽に励んでいる。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
	<p>利用者の自立に向けて、就労移行班プログラムを作成し、新法の就労移行支援事業(定員6名)を実施している。プログラムの目的は、社会志向性の習得とマナーモラルの習得、就職に対する意欲向上、就職前後のフォローアップである。就労支援計画策定にあたって、生活動作(生活習慣、健康と安全、一般理解)、社会参加(自己志向性、社会参加への志向性)を判定表でアセスメント(評価)する。個別就労支援計画書は、本人・家族の目標をたて、その目標実現のため「生活支援」、「就労支援」、「社会生活におけるルール・モラルの習得」を明記している。</p>		
	評価項目1の講評		
	<p>施設の支援方針は、利用者一人ひとりが持っている力を引き出し、「日常生活支援」と「作業支援・就労支援」を活動の柱として地域生活に関わる支援を行うことである。利用者の自立に向けては、就労移行班プログラムを作成し、新法の就労移行支援事業(定員6名)を実施している。プログラムの目的は、社会志向性の習得とマナーモラルの習得、就職に対する意欲向上、就職前後のフォローアップである。</p> <p>就労支援計画策定にあたって、生活動作(生活習慣、健康と安全、一般理解)、社会参加(自己志向性、社会参加への志向性)を判定表でアセスメント(評価)する。個別就労支援計画書は、本人・家族の目標をたて、その目標実現のため「生活支援」、「就労支援」、「社会生活におけるルール・モラルの習得」を明記している。個別就労支援計画は2年間を原則とし、ご家族や本人の課題や生活面・作業面の課題に対して職員と共に取り組んでいく。</p> <p>就労支援内容としては、障害者就労支援センター、ハローワーク、障害者職業センター等と連携を取り、利用者ニーズに応えている。一般就労を目的とした職場実習・見学を行い、職場や実習先に定着できるように職員が付き添うジョブコーチを実施している。また、利用者の就労意欲・喚起をはかり、自立支援(エンパワメント)につなげる取り組みとして、集合学習や企業実習などを行っている。現在ハローワークの紹介でリサイクル工場で3名がトライアル雇用を経て正式雇用となっている。</p>		
2	評価項目2 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者が活動しやすい環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 工賃は利用者との合意に基づいて支給している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2の講評

授産活動(就労継続B型)は、移譲前から継続している鉛詰・箱折・電気製品の加工作業のほか、駅伝大会の旗作り、団地や医療刑務所での清掃、市役所でのファイリングをしている。新たに加工作業として、封入作業、紙袋のひも通し等行っている。新しく担当する作業については、主体性を持って選択できチャンスを拡げるように、やりたい作業を自分で登録し、作業を体験した結果、納得の上選択するようにしている。

工賃は加工作業やポストイングなど拡大していることで、7月以降月額60万円を超える好調な状況が続いているため、平均工賃は1万円前後となった。今後も工賃の倍増に向けて、加工作業の増加だけではなく、清掃業務などの作業を拡大していく予定である。また工賃アップのため将来の自主生産(製菓部門)も視野に入れ検討している。

利用者用支援計画書は、簡素化されてルビをふっており、意思疎通が困難な方には、手話・筆談や画像・絵を用いてコミュニケーションのとり方を工夫している。作業内容は、ロビーに、各企業の箱作りの手順が実物で掲示されており、理解ができるように工夫している。利用者の主体性を尊重し、地域で自律生活を目指せるよう支援をおこなうために、利用者自治会の活動の支援を行い土曜日活動支援で活動の場を拡げ、外出や社会性を学ぶ機会の提供をしている。また、施設の行き帰りのトラブル等を予防するために必要によって見守りをするようにしている。

評価項目3

栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3の講評

移譲前からの業者に厨房業を委託しており、毎月開催の保護者も加わった給食業務連絡会で献立を決定している。毎月開催される給食業務連絡会に参加する2名の保護者は、試食会に参加し、その感想が献立に反映されている。常時食堂にはアンケート箱が置かれ、利用者の献立リクエストを参考にしながら翌月の献立を反映している。毎月の献立表には、利用者からのリクエストで採用したメニューが色つきで掲載され、利用者の楽しみの一つとなっている。

2階にある広い食堂で、職員は利用者を見守りながら利用者と一緒に食事している。特に介助を必要とする利用者はおらず、皆が和気あいあいと過ごしている。食後の薬の服用は自己責任としているが、現在のところ特にトラブルはない。看護師や委託業者の栄養士との連携で、減量メニュー、糖尿病食、減塩食を実施しており、刻み食の提供も行っている。

食事は、利用者にとって楽しみとなるよう心がけている。食堂でのセッティングや食事後の掃除は、当番制で利用者と職員が一緒に行っている。食堂清掃とお茶の当番表が掲示されている。食後に楽器を持ち込みグループで歌の練習をしている姿や、談笑している姿が見受けられた。

評価項目4

身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目4の講評

特に排泄や移動で直接身体介助を必要とする利用者はいないが、見守り程度の支援が必要な利用者がある。失禁等に備えて、必要な方には下着を預かったり、施設であらかじめ用意しレンタル等をしている。また一部の利用者については、朝夕駅までの見守りをしている。「できることは自分の力で」を基本に、過剰支援にならないよう留意している。

同法人の施設である八王子生活実習所を利用して、宿泊型自立支援体験学習を実施している。自宅以外での宿泊経験のない利用者には、作業を終えてから八王子生活実習所で宿泊する学習で、将来のグループホームへの入所や、保護者の緊急入院等の非常事態を考慮しての試みである。今後の参考のため、保護者に宿泊型サービスの利用希望アンケートをとった。母親が身動きできなくなった時に助かるとの意見やまだ無理との意見があった。

保健所に歯磨きの指導をお願いしている。食後は食堂の洗面台で自分で歯磨きをする習慣ができています。更衣室(ロッカー)は自己管理であるが、希望者には鍵の管理をしている。

評価項目5

利用者の健康を維持するための支援を行っている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目5の講評

内科医が毎月1回、班別に健康相談や問診を行っている。看護師が週に2日勤務し利用者の健康管理を行っている。看護師は調理委託業者の栄養士と連携して利用者の状態に応じて減塩食や糖尿病食等食を通じた健康管理も行っている。家族とは「健康手帳」はじめ日常的には「連絡帳」で連絡をしている。連絡帳には、家族から通院のための早退・遅刻の連絡のほか、薬が同封されることもある。

看護師は同法人の他施設の看護師も兼ねているので非番の時でも、利用者の体調変化についてはすぐ連絡がつき、相談することができる。看護師以外にも職員の中には入所施設からの異動者もいるので、発作時などは速やかな対応ができる体制が整っており、必要に応じて、通院介助もしている。また、ご家族の相談に応じて、嘱託医を通して他の病院の紹介もしている。

利用者の健康維持・増進のため一人ひとりの健康手帳を作成している。手帳には、月1回の体重測定、血圧測定、年2回の嘱託医による健康診断、年1回の身長測定、歯科検診等の記録が記載されている。生活習慣病予防のため、食生活と日常生活についての注意事項も記載され周知を図っている。この健康手帳は毎月1回は作業所と各家庭の間を往復することになっていて、保護者の健康管理への関心を喚起している。

6	評価項目6 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようなしくみを整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目6の講評			
<p>利用者の休日を有効に過ごすため、希望者に土曜プログラムを実施している。レクリエーション活動を企画することによって、自己表現や心身のリフレッシュを図り余暇の拡大と充実及び利用者間のコミュニケーションを促し利用者自身の主体性を引き出すよう努めている。調理実習、趣味活動など利用者の希望に沿いながら法人傘下の施設とも合同で行っている。映画、ボーリング、カラオケ、パソコン研修や動物園や他施設でバーベキューをしている写真がロビーに掲示されている。</p> <p>毎月1回、食堂で利用者による自治会(のばら会)が開催され、各班の代表グループが司会を務め今後の予定や意見を言い合う機会を設けている。土曜日活動の内容、一泊旅行、年忘れ会・新年会等の行事計画に利用者の意見を反映させている。施設が開催する11月の「ふじもり祭」は、利用者自らが模擬店で接客して大いに盛り上がった。近隣の公園で行われる市内の障害者団体主催の「八王子福祉祭り」に出店したり「ふれあい運動会」にも初めて参加した。</p> <p>昭和54年に東京都が開所した建物であり、小規模な改修は行ってきたが老朽化は否めない。移譲にあたり、トイレの改修事業が約束された。現在2階のトイレは改修が行われ、1階は工事中となっている。床、便器、配管等すべてが一新され、匂いも解消された。汚れも目立つので、利用者自身も汚した直後に拭き掃除ができるよう雑巾等も用意しており、清潔さを保つ努力を一丸となっている。</p>			
7	評価項目7 施設と家族等との交流・連携を図っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目7の講評

施設は東京都からの移譲に伴い、利用者・家族に対して、民間への移譲の意味、自立支援法での運営方法等について、丁寧に説明するとともに話し合いを重ねてきた。半年が経過して、保護者に対するアンケートを行い、48名から回答を得た。アンケートは、作業・工賃・行事・土曜活動・給食・職員の対応等の項目を分けて質問した。当初は公営から民間へ変わることへの不安感を持つ保護者が多かったが、このアンケートでは、概ね満足との感触が得られた。

毎月、利用者、保護者、関係機関に「八王子だより」を配布し、現況や翌月の予定、保護者会のお知らせ、行事・土曜活動の様子を伝えている。また、移譲してからはじめて連絡帳を作成し、施設と家庭での日々の連絡に活用している。車で送迎する保護者の中には、気軽に施設長に声かけ、相談している姿が見られた。また、繁忙期には、家族がボランティアとして作業を手伝っている。

8 評価項目8

地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目8の講評

障害者理解を深めるために、開かれ、誰にでも気軽に足を運んでもらえる施設を目指し、法人傘下の施設と協力して色々な情報を発信している。また施設長が講師として近くの養護学校や地域児童デイなどで話しをしている。行事には地域住民が参加できるコーナーや他施設の紹介や出店をしている。また、施設の食堂を地元の老人会のカラオケクラブに月2~3回貸し出している。

地域デイグループとの連携を取り、生活講座に参加し、利用者の生活の幅を広げる一助としている。来年度は、施設独自の生活講座の開催も検討している。

ワークセンターの障害者福祉就労活性化事業とは連絡を密に取っており、ワークセンターから施設へ、行政からの委託事業、民間企業などの簡易下請作業請負等の紹介を受けている。就労関連では、ハローワークやジョブコーチと情報の交換をし、ハローワークからの紹介、地元業者からのトライアル募集などの情報を速やかに掲示板に貼り出し、一般就労に向けたチャレンジの機会を提供している。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者とともに良い施設づくり
	内容	今年度、東京都から移譲の前に保護者に説明会を開催し、対話を重ね従来の支援姿勢を継続することを伝えた。移譲後、施設と保護者間の「連絡帳」を新たに作成したり、毎月1回保護者会では情報の共有化を図ってきた。繁忙期は家族がボランティアとして協力するなど一団となって運営している。移譲後半年経過した時点で利用者・保護者アンケートを行い、当初は不安感を抱く保護者も多かったが、現在は概ね満足との回答を得ている。
2	タイトル	「地域交流」の前進
	内容	施設は、移譲前にはほとんど行なわれていなかった「地域交流」を多様な形で積極的に行っている。近隣の公立高校の生徒延べ300名を実習見学を受け入れたり、児童相談所の中学生が月2回実習体験として利用者と協働作業を行っている。また、施設長が講師として地元養護学校や地域児童デイなどの講座に出向いている。このような多面的で積極的な活動が、地域での施設の理解を深め交流関係を広げている。
3	タイトル	就労移行支援に関する外部との積極的な連携
	内容	利用者の自立に向けて、就労移行班プログラムを作成し、新法の就労移行支援事業（定員6名）を実施している。プログラムの目的は、社会志向性の習得とマナーモラルの習得、就職に対する意欲向上、就職前後のフォローアップである。就労支援計画策定にあたり、生活動作（生活習慣、健康と安全、一般理解）、社会参加（自己志向性、社会参加への志向性）を判定表でアセスメント（評価）する。個別就労支援計画書は、本人・家族の目標をたて、その目標実現のため「生活支援」、「就労支援」、「社会生活におけるルール・モラルの習得」を明記している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	授産事業拡大計画に慎重なフィージビリティスタディを
	内容	授産活動（就労継続B型）は、移譲前から継続している飴詰・箱折・電気製品の加工作業のほか、駅伝大会の旗作り、団地や医療刑務所での清掃、市役所でのファイリングをしている。工賃は加工作業やポストイングなど拡大していることで、平均工賃は1万円前後となった。今後の工賃の倍増に向けて、自主生産事業（製菓部門）も検討している。しかし、自主生産事業はリスクも大きく、慎重なフィージビリティスタディ（新製品に関する実行可能性や実現可能性を検証する作業）が望まれる。
2	タイトル	施設独自の広報誌、ホームページで情報の発信を
	内容	施設の情報、法人のホームページで施設概要、支援方針、入所申込、ボランティア募集の内容が掲載されている。しかしながら、簡単なパンフレット「施設の案内」はあるが、現況を広く伝える施設独自の広報誌やホームページは作成されていない。今後、授産事業とりわけ自主生産を行ったり、広く職員やボランティアを募集するメディアとしての広報誌やホームページが待たれる。
3	タイトル	職員の特性に合わせた人材育成を
	内容	就労移行支援事業、就労継続B型事業を行う当施設は、職場開拓、ジョブコーチ、授産工程管理、自主生産事業、販路開拓など多様な専門能力が求められている。職員のそれぞれの特性に合わせ、その能力が発揮できるよう、計画的な人材育成が期待される。